

改訂第10版救急救命士標準テキスト正誤表 (2024-04-10)

次刷以降で訂正予定(2024年4月10日公開分)

頁	誤り	正
225頁 右段下から2行目	救命救急センターには、概ね 30 床の病床が…	救命救急センターには、概ね 20 床の病床が…

第7刷で訂正(2024年4月10日公開分)

頁	誤り	正
652頁 表Ⅲ-5-39 咳嗽→急性喉頭蓋炎の枠内	犬吠様咳嗽で 咳き込みが強い	あまりみられない

第6刷で訂正(2023年3月27日公開分)

頁	誤り	正
102頁 左段上から7行目	この 胸腔 に空気、浸出液、血液、膿が貯留することがあり、	この 胸膜腔 に空気、浸出液、血液、膿が貯留することがあ
193頁 右段上から10行目	放射線 傷害	放射線 障害

第5刷で訂正(2022年4月19日公開分)

頁	誤り	正
108頁 右段下の脚注	肺静脈血や臍静脈血は 酸素に富む血液である。	肺静脈と臍静脈を流れる血液は 酸素に富む動脈血である。
146頁 左段下から19行目	不正形	不整形
156頁 図Ⅱ-1-132の説明	皮下組織: 皮膚付属器の存在しない部分	皮下組織: 真皮の深部に結合している緩い結合組織の層
156頁 右段下から7行目	皮下組織に位置する 単一管状腺である。真皮深層から皮下組織に脂肪組織に囲まれて存在し、糸球状に走行する。	真皮深層から皮下組織に脂肪組織に囲まれて存在し、 糸球状に走行する単一管状腺である。
173頁 右段下から9行目	絨毛	線毛
182頁 写真2-2-6のタイト	下腸間膜動脈閉塞症による腸管虚血	上腸間膜動脈閉塞症による腸管虚血
249頁 左段上から10行目	救急隊員の行う 応急処置等の基準	救急隊員及び准救急隊員の行う 応急処置等の基準
251頁 右段下から13行目	救急業務実施基準第 19 条では…	救急業務実施基準第 23 条では…
337頁 左段下から12行目	マンシェットを巻く部分 に傷や皮膚の疾患がある場合は、反対側上腕で測定することが望ましい	マンシェットを巻く部分やその中枢側 に傷や皮膚の疾患がある場合は、反対側上腕で測定することが望ましい
448頁 左段上から13行目	事前に国土交通省への届出 が必要である。	場外離発着場を設定する際には国土交通省への許可 が必要である。
480頁 右段上から24行目	心肺停止	心肺停止
791頁 左段上から7行目	健丈	健常
809頁 表Ⅲ-7-14	いびき音(ロンカス)	いびき音(ロンカイ)

第5刷で訂正(2021年8月26日「重要な訂正のお知らせ」公開分)

頁	誤り	正
813頁 左段上から11行目	37℃から20℃までは、体温が1℃低下するごとに代謝は約13%低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が 延長される。	体温が1℃低下すれば酸素消費量はおよそ6~8%減少するため、低体温を伴う溺水では、 低いし無酸素状態での生存時間が延びる場合がある。
821頁 右段下から3行目	37~20℃までは、体温が1℃低下するごとに代謝は約13%低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が 延長される。	体温が1℃低下すれば酸素消費量はおよそ6~8%減少するため、低体温では 低いし無酸素状態であっても生存時間が延びる場合がある。

※なお、関連する下記の2箇所につきましては、変更はございません。

第4刷で訂正(2021年6月4日公開分)

頁	誤り	正
170頁 左段下から7行目	また、寒冷や放射線、薬剤などの化学薬品などによって細胞傷害を起こすものを 化学的要因 という。	寒冷や放射線などでも生じる。医薬品、化学薬品などによって細胞障害を起こすものを 化学的要因 という。
613頁 左段下から18行目	その調節は、腎臓と肺における炭酸水素による強力な緩衝作用により行われる。	その調節は、複数の緩衝系に加え、肺と腎臓の働きにより行われる(p.60、「5 酸塩基平衡」参照)。」
400頁 左段下から3行目	血管が2本の骨の間を走行している前腕や下腿では緊縛による血流遮断が不十分になるため、通常は上腕または大腿を緊きん縛ばくする。	左記の文章を削除
636頁 表Ⅲ-5-32	「任意接種」の「ワクチンの種類」 ムンプス、 B型肝炎 、A型肝炎、ロタウイルス、… 「定期接種A類」の「ワクチンの種類」 四種混合(ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ)、MR(麻疹、風疹)、…、ヒトパピローマウイルス	「任意接種」の「ワクチンの種類」 ムンプス、A型肝炎、ロタウイルス、… 「定期接種A類」の「ワクチンの種類」 四種混合(ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ)、MR(麻疹、風疹)、…、ヒトパピローマウイルス、 B型肝炎
830 左段下から4行目	必要な 汚染 の程度は異なるが、…	必要な 除染 の程度は異なるが、…
662 左段下から17行目	約60%がアルツハイマー病、 約20 が脳血管障害、…	約60%がアルツハイマー病、 約20% が脳血管障害、…
394 左段下から21行目	ブドウ糖溶液の製剤は50% 20mL のプレフィルドシリンジを用いる(ブドウ糖として 投与量20g)	ブドウ糖溶液の製剤は50% 20mL のプレフィルドシリンジを用いる(ブドウ糖として は2本投与で20g)

第3刷で訂正(2021年3月31日公開分)

頁	誤り	正
653頁 右段下から13行目	年長児においても、 内ヘルニア によるイレウス、腸回転異常などにまれに遭遇する。	年長児においても、 複雑性腸閉塞 、腸回転異常などにまれに遭遇する。
425頁 左段下から6行目	喉頭や喉頭蓋の軟骨が未成熟であり 軟らかい ため損傷をきたしやすい。	喉頭や喉頭蓋の軟骨が未成熟であり、 もろい ため損傷をきたしやすい。
674頁 左段上から8行目	(新生児の心拍数は大人の2倍であり、心拍数 60 /分は徐脈である)	(新生児の心拍数は大人の2倍であり、心拍数 100 /分は徐脈である)
293頁 左段下から1行目	…一類感染症または 二類感染 に該当するとされた…	…一類感染症または 二類感染症 に該当するとされた…
473頁 右段下から1行目	意識障害の傷病者で一側の散瞳と反対側の片 麻痺 を…	意識障害の傷病者で一側の散瞳と反対側の片 麻痺 を…

改訂第10版救急救命士標準テキスト正誤表 (2024-04-10)

第2刷で訂正(2020年7月1日公開分)

頁	誤り	正
103頁 図Ⅱ-1-75 右「呼吸時」イラスト上	横隔膜が収縮している	(文章を削除)
209頁 右段「C 重要な静脈内投与薬-1輸液製剤」上から3行目	・・・(1日1500~2500L)・・・	・・・(1日1500~2500mL)・・・
359頁 図Ⅲ-2-37 右上 囲み3-4行目	※2 コーマックグレード1の場合ではBURP法を行ってもよい。	※2 コーマックグレード1でない場合にはBURP法を行ってもよい。
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から1	以下の(1)~(4)すべてで15歳以上の傷病者を対象とする。	(文章を削除)
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から5	(2) 心臓機能停止例:・・・	(2) 心臓機能停止例[8歳以上(推定も含む)]:・・・
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から7-9行目	(3) 増悪するショックである可能性が高い場合、またはクラッシュ(圧挫)症候群を疑うか、それに至る可能性が高い場合:・・・	(3) 増悪するショックである可能性が高い場合、またはクラッシュ(圧挫)症候群を疑うか、それに至る可能性が高い場合[15歳以上(推定も含む)]:・・・
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から12行目	(4) 低血糖症例:・・・	(4) 低血糖症例[15歳以上(推定も含む)]:・・・
389頁 右段上から16-17行目	⑦アドレナリン投与後1分後に心電図波形と総頸動脈を確認する。	⑦アドレナリン投与後約2分後に心電図波形と総頸動脈を確認する。
390頁 写真Ⅲ-2-79 写真右の説明文	⑤⑦ 上肢を10~20秒程度挙上させ、アドレナリン投与後1分後に心電図波形と総頸動脈を確認する	⑤⑦ 上肢を10~20秒程度挙上させ、アドレナリン投与後約2分後に心電図波形と総頸動脈を確認する
707頁 左段下から5行目	・・・あるいは橈骨動脈が触知可能である場合・・・	・・・あるいは橈骨動脈が触知可能である場合・・・
713頁 左段下から3行目	・・・静脈が圧迫されて静脈灌流を妨げるので・・・	・・・静脈が圧迫されて静脈還流を妨げるので・・・
813頁 左段上から11-13行目	体温が1℃低下するごとに代謝は5% 低下する。体温が10℃低下すれば代謝は50% 低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が延長される。	体温が1℃低下するごとに代謝は約13%低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が延長される。 (「体温が10℃低下すれば代謝は50% 低下する」を削除) ※再訂正あり(「第5刷で訂正(2021年8月26日「重要な訂正のお知らせ」公開分)」を参照)

第2刷で訂正(2020年9月14日公開分)

頁	誤り	正
147頁 左段「D 血液型」上から10行目	・・・日本人ではA型(40%)>B型(30%)>O型(20%)・・・	・・・日本人ではA型(40%)>O型(30%)>B型(20%)・・・
323頁 右段「B 感覚」上から7行目	・・・関節や腱に・・・	・・・関節や腱に・・・
778頁 右段上から7行目	「・・・眼瞼結膜」のルビ「がんけいけつまく」	「がんけんけつまく」
207頁 左段上から8-9行目	・・・血糖値に応じて必容量のブドウ糖溶液を投与する。	・・・血糖値に応じて必要量のブドウ糖溶液を投与する。